臨春閣

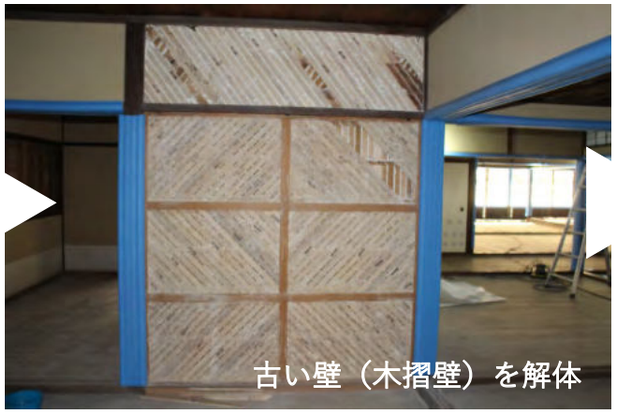
保存修理工事のポイント

―耐震補強工事：耐震施工編―

約５年もの歳月をかけ行われた臨春閣の保存修理事業ですが、文化財建造物の保存修理事業は「変えずに遺していくこと」が求められるため、工事前後で大きな変化は見られません。しかしそこに注ぎ込まれた技術は、今やユネスコ無形文化遺産にも登録された、世界が認める日本の匠の技の数々です（2020 年 12 月登録“伝統建築工匠の技　木造建造物を受け継ぐための伝統技術★”）。現代の建築設計技術を元に行われた耐震補強工事でも、伝統の技を受け継ぐ職人たちが腕を揮いました。伝統の技、伝統を受け継ぎながら新たに育まれた技術が、新技術とともに文化財建造物の「これから」を支えていきます。

障壁画（絵の描かれた本紙）を剥がす

裏打紙（障壁画の下地紙）を剥がす


古い壁（木摺壁）を解体

壁を構造用合板で施工（耐震壁）

耐震壁施工

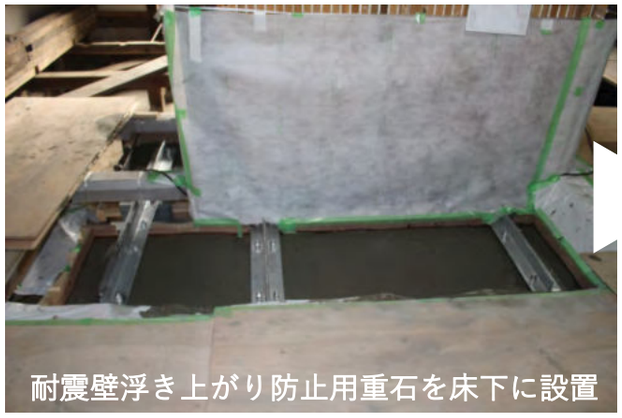
水平構面補強施工

★建造物木工

★装潢修理技術

★左官［日本壁］

（★建造物漆塗）


耐震壁浮き上がり防止用重石を床下に設置

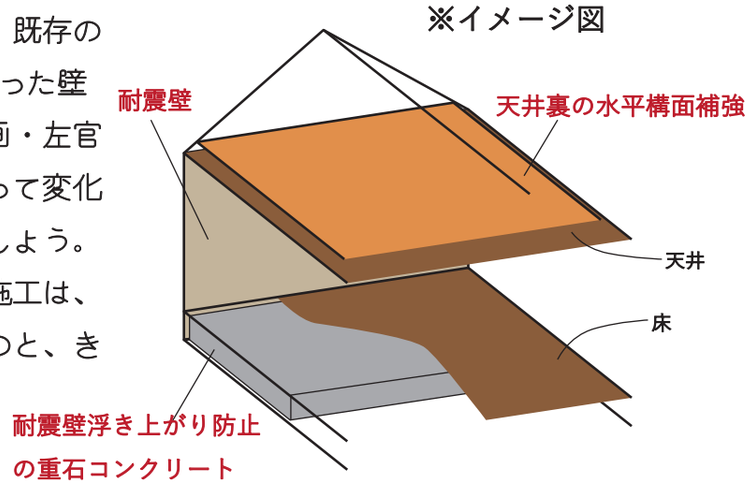
小壁の左官壁（聚楽壁）復旧

障壁画の下地紙を順に貼り重ねる

障壁画貼り戻し

垂直方向の補強である耐震壁施工は、既存の「木摺壁」から頑丈な構造用合板を使った壁に改めましたが、表装は既存の障壁画・左官壁同様の施工を行ったため、元に戻って変化はぱっと見ただけでは分からないでしょう。水平方向の補強である水平構面補強施工は、天井裏の見えない箇所に設置したものと、きわめて細い鋼棒によるもので、極力意匠に配慮しています。

※イメージ図



第三屋二階小屋裏水平構面補強

玄関棟水平構面補強